

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0991
施設名	島根いちい保育園
施設所在地	東京都足立区
法人名	社会福祉法人 水の会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光の探求

<テーマの設定理由>

日頃から光や影などの自然現象を見つけては、その不思議さや面白さ、輝きを感じ取っていることに気づいた。環境をデザインした時、子ども達はどのように遊びを広げ、発展させていくのかを探っていきたいと思った。

2. 活動スケジュール

8月 クラス会議（テーマ決め、活動内容検討）
9月 光遊び（ライトテーブル、懐中電灯、カラフル望遠鏡）
10月 光遊び（スタンドガラス、プロジェクター）
11月 まとめ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ライトテーブル 薄暗い場所に設置
- ・カラフル望遠鏡 4色のセロハンを細く切って使用
- ・段ボール
- ・プロジェクター 光を壁に映し出す・ハロウィンでは仮装して映し出す。
- ・スタンドガラス

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・ライトテーブル遊び→カラフル望遠鏡制作と遊び→型抜き段ボールと懐中電灯
→プロジェクターに映る世界→スタンドグラス制作と光の探求
→プロジェクターでハロウィン

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

今までやったことのない活動で、毎回子ども達は驚きと興奮の連続だった。子ども達自ら「こうやったらどうなるんだろう？」という興味関心意欲が掻き立てられ、色々な遊びへと発展していった。子ども達の問いかけに対しての意見や、次やってみたいことが沢山出てきたので子どもたちと保育者が一体となって活動を継続することができた。



ライトを後ろから当てたら、どうなるかな？

(セロハンがひらひら落ちる様子を見て) きれい～



鳥さんが、いっぱい飛んでるよ。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

懐中電灯やプロジェクターを用いた光遊びは、子ども達の日常生活で触れる物ではなかったため、興味関心が高まり、遊びの発展も保育者の創造を超えていた。光遊びは刺激的で感動的だったことから、子ども達自ら遊びを展開させていた。保育者自身も光遊びの興味深さを感じ、子ども達と一緒に探求してこれたことも大きな収穫になった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0991
施設名	島根いちい保育園
施設所在地	東京都足立区
法人名	社会福祉法人 水の会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

海って？
「サメについて」

<テーマの設定理由>

夏に、子ども達が海について話している会話から、クラスで海について考える機会を設けた。サメに興味のある子が多く、海の生き物に興味を示していたので、サメについてみんなで探求してみたいと考えた。

2. 活動スケジュール

保育WEBを用いてイメージを話し合う→グループごと1種類のサメについて詳しく調べ発表し合う→映像で見て疑問に感じたサメの大きさをメジャーで測ってみよう→実寸大のイタチザメの制作をする→保育室を海の世界にする→たくさんのお友達を部屋に招待する→水族館に行って本物のサメを見よう

①海について・等身大のサメを作ろう 7月16日～30日 ②部屋を海に 7月19日～10月3日 ③水族館 10月11日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

サメのイラストを保育室に掲示し、海やサメに関する図鑑や絵本を置いておく。

・メジャー、絵具、折り紙、段ボール、キッチンペーパー等

4. 探究活動の実践

実寸大のサメを作ろう

メジャーで大きさを測り、ダンボールを使用する。

新聞紙等準備し子ども達のイメージから、意見を出し合い作っていった。

グループごとに、いろいろなアイデアが出て話し合いを重ね大きなサメを完成させた。

水族館に行き、本物のサメが水の中で泳いでいる姿を見て感動している姿が見られた。

お楽しみ会（発表会）で、継続して取り組んできたサメについて保護者に知らせ終了する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

サメのイメージが怖い生き物だった子ども達だったが、様々なサメをよく観察していく中で「かわいい」などイメージの変化が見られた。子ども同士で、なぜ可愛いのか考えると、それぞれにサメに対しての気づきがあった。興味関心が大きくなると「泳いでいる姿が見たい」と声が上がリスクリーンに映し出した。泳ぐスピード感やサメの動きを見て次は水族館で実物が見てみたい！と意見が出て子ども達の声活動を反映し継続していった。



サメの中に入れてみよう



サメってこんなに大きなんだね



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達のやってみたい！の気持ちを実現するためには、どのような環境を整えていったらいいのか、深く考えるきっかけになった。子ども達同士の話し合いの場を多く設けることで子どもからの声や気づきに耳を傾け、一緒に活動を作り上げる充実感を感じることができた。実際に泳いでいるサメを水族館に見学に行き、保護者の方にもお楽しみ会（発表会）で継続している活動を見て頂けたことは、日々取り組んできた保育を知っていただく機会になったと感じている。